

胃幽門および胆嚢の神経分布

著者	茹 飛
雑誌名	博士学位論文要旨 論文内容の要旨および論文審査結果の要旨 / 金沢大学大学院医学研究科
巻	平成17年7月
ページ	8-8
発行年	2005-07-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/15878

学位授与番号	甲第 1641 号
学位授与年月日	平成 16 年 6 月 30 日
氏 名	茹 飛
学位論文題目	胃幽門及び胆嚢の神経分布
論文審査委員	主 査 教 授 三 輪 晃 一 副 査 教 授 田 中 重 徳 教 授 渡 邊 剛

内容の要旨及び審査の結果の要旨

上腹部の自律神経系、殊に幽門及び胆嚢に分布する神経に関しては多くの研究が為されているが、その殆どは局所・部分的データであって、分布・支配の全体機序は明らかにされていない。

本研究は臨床解剖学の観点から、幽門と胆嚢に分布する神経の形態及び肝神経叢との関係を解明することを目的とし、解剖学実習に供された遺体 10 体において、摘出した臓器をエタノールに入れ、脱脂・脱水を繰り返した後、0.001%アリザリンレッド S 含有エタノールに浸漬し、末梢神経を広域染色した。この約 10 回に及ぶ過程を経た標本を実体顕微鏡下で解剖し、支配神経の形態を全体的に且つ微細に解明した。

得られた結果は次のように要約される。

1. 幽門の神経支配は幽門上部の神経枝と幽門後面・下部の神経枝とに分けられた。
2. 幽門上部への支配神経は以下の三つの経路に分類された。
 - 1) 肝枝が肝門近くで前肝神経叢に参入し、この神経叢から幽門上部への神経が起り、右胃動脈に沿って幽門に達していた。この経路は、すべての解剖例に認められた。
 - 2) 肝胃間膜内を下行し、右胃動脈に沿う神経に参入する経路は 10 例中 5 例に認められ、うち 4 例は肝枝から分枝し、1 例は前、後胃枝からの分枝し、幽門に達していた。
 - 3) 迷走神経胃枝からの分枝が胃小弯に沿って下行し、右胃動脈に沿って走る神経に合流した後、幽門に達していた。この経路は、全例において観察された。
3. 幽門後部と下部は胃十二指腸動脈や右胃大網動脈・幽門下動脈に伴走する神経によって支配されていた。
4. 胆嚢の支配神経は前肝神経叢及び後肝神経叢由来であることが判明した。前・後肝神経叢から起こる神経枝は胆嚢管の周囲で繋がり、胆嚢神経叢を形成し、最終的に胆嚢管および胆嚢動脈に沿って、又は直接に胆嚢に分布することが確認された。肝枝から直接胆嚢に分布する神経は観察されなかった。

本研究は、従来法では同定困難な幽門の後面や下部の極めて細い神経までが解明された。幽門及び胆嚢を支配する神経の形態の根本的解明は、上部消化管の機能温存手術遂行にあたって必須であり、本研究は解剖学ならびに臨床外科学上価値ある労作と評価された。